

山から亂問せられ、天保十四年二月廿九日寂、享年六十四。

センガクソウジン 千岳宗侶 大坂の産。

奥村氏。濃州正傳寺惟天に學び、元和三年金澤に來り、塩屋町に德輝山大法寺を創立し、寶永八年七月又泉野寺町に寺地を拜領して太白山寶勝寺を起し、次いで承應三年七月前田綱紀の命を受けて傳燈寺の傾廢を興隆し、明暦元年三月成るに及び入りてその寺主となつた。初め藩主利常・光高二人、千岳を尊信すること甚だしかつたから、光高の卒した時には追福願五十六句を靈前に奉り、三年能美郡梯村に天滿宮の建立せられるや、利常に代つてその上棟文を撰じ、利常の歿後追福の詩七首を泉下に薦めた。蓋し當時能文の人として推されたのであらう。

センガンジ 專願寺 鹿島郡能登部下にあつて天台宗であつたといふ。廢址は專願寺屋敷といひ、能登比咩神社に隣るから、その社僧であつたのであらう。

センガンジ 善願寺 鳳至郡粟藏にあつて、眞言宗に屬する。能登名跡志に『粟藏より南の川端の岡に、善願寺として眞言の小寺あり。』とある。

センギ 詮議 ↓サイバン 裁判。

センギ 千木 ↓セイ 河北郡井上庄に屬する部落。

センギクシヨウ 千菊抄 一册。前田利家が利長に與へた書簡、豊太閤の利家に與へたもの、光高の百首、家康の秀忠夫人に贈つた文、吉宗公夜話などを載せる。加賀藩人の編であらう。

センギノ 千木野 ↓セギノ 千木野。

ゼンキユウ 善教 ↓フサイゼンキユウ 曹濟善教。

ゼンキヨウアン 仙慶庵 鳳至郡中居南に在つて、曹洞宗に屬する。

ゼンキヨウジ 專慶寺 能美郡東任田に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治三年五月寺號の公稱を許された。

ゼンキヨウジ 專慶寺 鹿島郡上湯川に在つて、眞宗東派に屬する。

ゼンキヨウジ 專行寺 河北郡高松に在つて、眞宗東派に屬する。もと羽咋郡米出に居たが、天明五年今の地に移つたといふ。

ゼンキヨウジ 專行寺 珠洲郡檜原に在つて、眞宗東派に屬する。

ゼンキヨウジ 善慶寺 珠洲郡北方に在つて、眞宗東派に屬する。

ゼンキヨウジ 善教寺 河北郡上田名に在つて、眞宗東派に屬する。明治十一年八月寺號の公稱を許された。

ゼンキヨウジ 善行寺 金澤卯辰に在つて、日蓮宗に屬したが、延寶三年斷絶した。

ゼンキヨウジ 善行寺 石川郡田井に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年六月寺號の公稱を許された。

ゼンキヨウジ 善行寺 羽咋郡下河合に在つて、眞宗西派に屬する。

ゼンキヨウジ 善行寺 羽咋郡本江に在つて、眞宗西派に屬する。もと同郡尾長村に居たが、寛永中今の所に轉じたといふ。

ゼンキヨウジ 善行寺 鹿島郡盤若野に在つて、眞宗東派に屬する。山號は昌谷山。

ゼンキヨウジ 善行寺 鳳至郡鹿波に在つて、眞宗東派に屬する。山號は木舟山。

ゼンキヨウジ 善行寺 鳳至郡皆月に在つて、眞宗東派に屬する。初め同郡吉浦に創立し、元和三年今の地に移つたといふ。

ゼンクウマツリ 遷宮祭 白山比咩神社にて古へ六月十八日に行はれた。社傳に往昔白山村の古宮の地から三宮に遷座した記念祭だといふが、古宮の火災は文明十二年十月十六日、三宮を永久の社殿と定めて直座の式のあつたのは長享二年六月一日であるから共に當らない。白山禪眞私記等に、白山神靈の出現を養老元年六月十八日とするから、或はその祭禮かも知れぬ。

センケイイン 僱溪院 加賀藩主第三代前田利常の女で、保科正經夫人となつた熊姫の法號。詳しくは櫻溪院昌室宗桂大禪定尼。

ゼンゲンリヨウタン 全源亮湛 金澤曹洞宗寶圓寺十三代の住持。生國は伯耆。正徳三年十一月越中水見光禪寺より進山し、享保九年十月隱居、元文二年三月五日遷化した。

センコウイン 宣光院 加賀藩主第十代前田重教の女那姫の法號。詳しくは宣光院玉貌智珠大姉。

センコウジ 専光寺 金澤田丸町に在つて、眞宗東派に屬する。寺記に、志念康忠は本願寺覺如の弟子となり、正和二年石川郡大糠に寺を創め、康安元年二月十五日示寂した。嗣なく、純如の門人志榮入りて後を受け、護方山専光寺と改め、應安十五年十一月朔日寂し、文明中五代慶心康寂の時同郡吉藤村に移つた。蓮如の帖外御文百七十四(日附を缺く)に、吉藤専光寺といふものはである。天正中八代慶榮康元の時鶴來に轉じ、慶長元年更に金澤の御城後町に移り、元和中九代慶信康宣

の時田丸町の今の寺地を受けたとある。専光寺由緒書にいふ、『第八世慶榮代に、云々。石川郡鶴來村山奥に立退罷在候。其後利家公より御當地へ立歸候様被仰渡、御城下後町と申所に而屋敷致拜領寺致再興候。其以後利長公越中御隱居に付、慶榮儀も高岡に隱居仕候様被仰渡、則高岡に而屋敷拜領普請用意仕候處、御逝去に付利常公に御斷申上、高岡隱居屋敷之爲替地、御當地於安江水町屋敷拜領被仰付候。御城後町之寺者、利家公(利長歟)御代本願寺より御當地に未利建立有之度由被申越候得共、新寺院建立難被成旨被仰遣、依之右専光寺を以本願寺之別院に相立候。以來東末寺と稱し申候。其後利常公御代、御當地火災に付町割御座候而、後町寺地を奥野主馬上屋敷に致所替候。此節より安江水町隱居居敷を以、専光寺本坊と仕候事。』との文の時代に矛盾もあるが、慶長七年東本願寺分立以後、その未利に専光寺本坊を假用したとのことは、頗る注意の必要がある。

センコウジ 専光寺 江沼郡山代に在つて、眞宗東派に屬する。越前坂井郡新郷から來たので、新郷専光寺といふ。

センコウジ 専光寺 石川郡大野庄に屬する部落。郷村名義抄に、この村古へ吉藤村と稱したが、専光寺があつた爲に邑名が變じたといふ。正保・寛文・眞享の高辻帳には専光寺村とある。専光寺は今金澤に在るもので、一に吉藤御坊といはれる。

センコウジ 千光寺 珠洲郡小路に在る。もと臨濟宗であつたが、弘治二年穴水瑞源寺海雲を開山として、曹洞宗に歸した。

センコウジ 善巧寺 河北郡越中坂に在つ